糸貫川における川づくり

岐阜県 県土整備部 河川課
企画環境係　藤井 孝和

糸貫川における川づくり

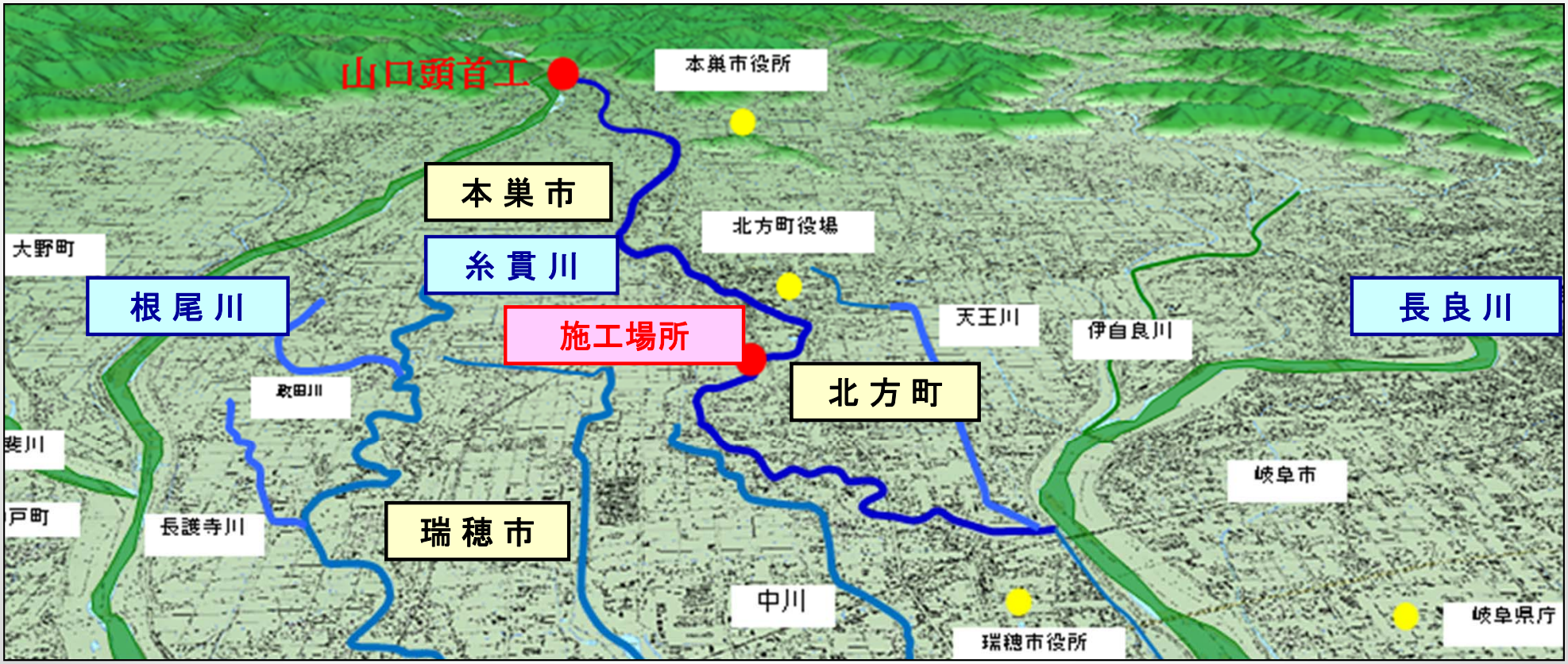
発表概要

- 清流平和公園の概要、経緯
- 公園整備と一体となった河川整備について
- 清流平和公園の活用状況と今後の課題について

糸貫川 清流平和公園の概要

糸貫川の位置

- 県南西部を流れる１級河川
- 根尾川から山口頭首工で分派し本巣市、北方町、瑞穂市を流れ、長良川に至る



糸貫川 清流平和公園の概要

事業の背景

- 北方町は「人間都市」「公園都市」を目標に各施策を進めている。
- 土地区画整理事業により公園用地を創出。
- その用地と糸貫川の高水敷を活用し清流平和公園の整備を計画
- 地域住民との意見交換会を開催し整備構想（案）を作成

糸貫川 清流平和公園の概要

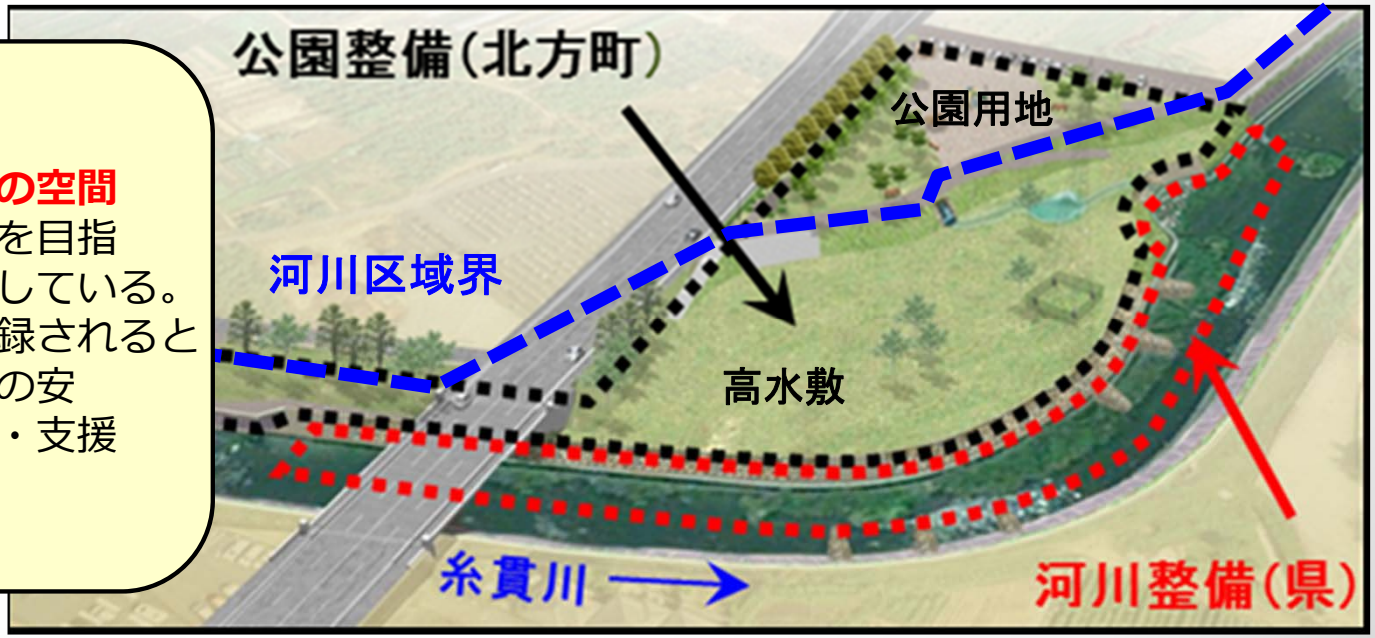
「かわまちづくり支援制度」を活用

- 整備構想の実現には護岸の改修が必要
- 町は「かわまちづくり計画」を作成し、Ｈ２５年度に国土交通省の「かわまちづくり」支援制度に認定
- 岐阜県はまちづくりと一体になった水辺整備

「かわまちづくり」支援制度

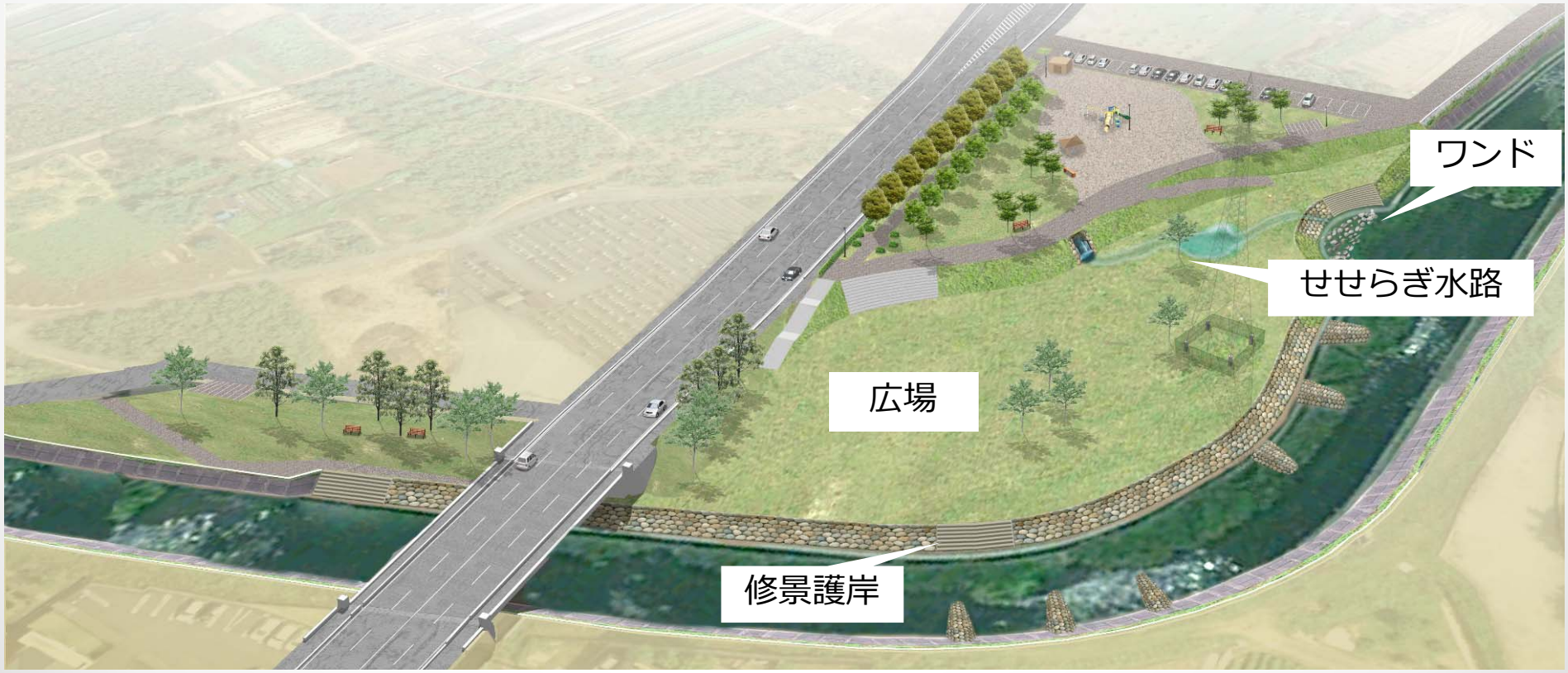
国土交通省では、**河川空間とまちの空間の融合**が図られた、良好な空間形成を目指す取り組みを**「かわまちづくり」**としている。

「かわまちづくり」支援制度に登録されると河川管理者が治水上及び河川利用者の安全・安心に係る河川管理施設を整備・支援することができる。



公園整備と一体となった河川整備

清流平和公園の整備方針
- 地域住民の憩いの場
- 自然と触れ合える空間
- 川で遊び、川を学ぶ（環境学習）



当初イメージ図

公園整備と一体となった河川整備

＜研究機関の技術的支援＞

・県と土木研究所との協力協定に基づき、(国研)土木研究所自然共生研究センターに協力を依頼し、技術的な支援を受ける。

多自然川づくりの観点から当初計画をみると

・ワンドは湾曲部内側にあり閉塞が予想される。
・修景護岸は対岸の既設護岸と色調が異なっている。

関係者間で検討会を開き、認識を共有しながら計画見直し

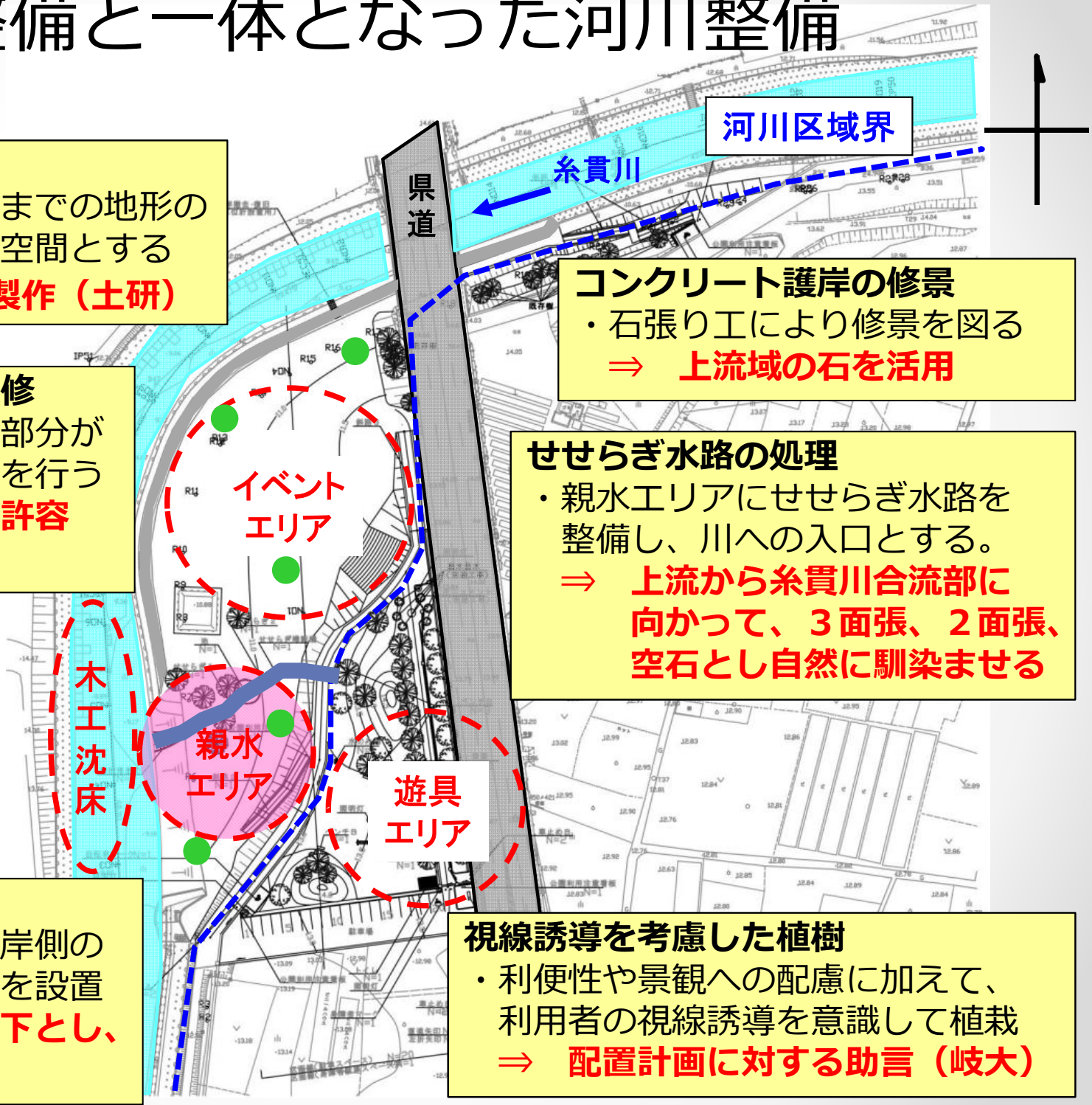
※関係者（土木研究所、設計業者、施工業者、県、町）

公園整備と一体となった河川整備

水際まで一連の地形処理
・上段の遊具エリアから水際までの地形の連続性を意識し、一体的な空間とする
⇒ **イメージ共有のため模型製作（土研）**

コンクリート護岸を土羽に改修
・護岸から土羽に切り替わる部分が景観に馴染むよう端部処理を行う
⇒ **水理解析により土羽の許容範囲を確認（土研）**

木工沈床の利用
・魚類等の隠れ家の創出と左岸側の砂州の抑制のため木工沈床を設置
⇒ **設置天端高は平水面以下とし、最低限の設置**



コンクリート護岸の修景
・石張り工により修景を図る
⇒ **上流域の石を活用**

せせらぎ水路の処理
・親水エリアにせせらぎ水路を整備し、川への入口とする。
⇒ **上流から糸貫川合流部に向かって、３面張、２面張、空石とし自然に馴染ませる**

視線誘導を考慮した植樹
・利便性や景観への配慮に加えて、利用者の視線誘導を意識して植栽
⇒ **配置計画に対する助言（岐大）**

公園整備と一体となった河川整備

見直し後のイメージ図

公園整備と一体となった河川整備

着手前

公園整備と一体となった河川整備

完了

公園整備と一体となった河川整備

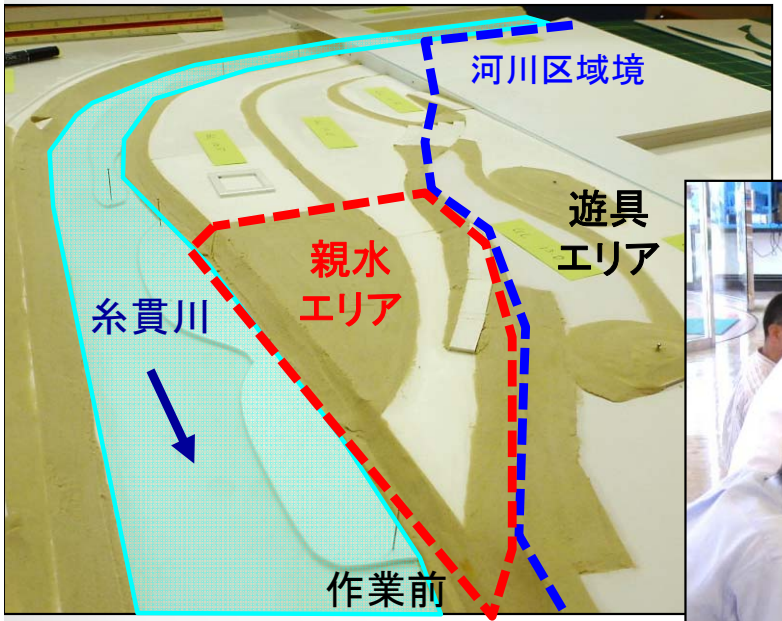
地形デザイン

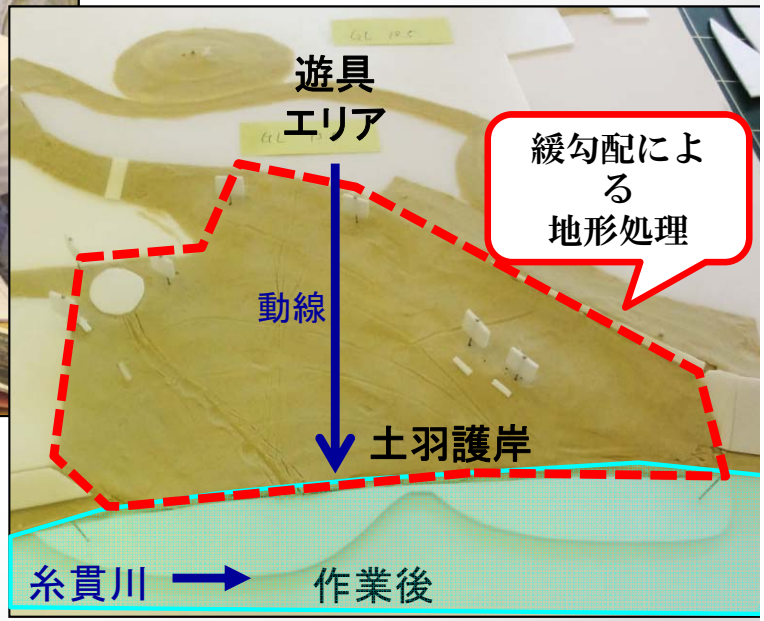
川と公園を一体化し，水辺に開けた地形処理

公園整備と一体となった河川整備

地形デザイン

模型を活用した検討



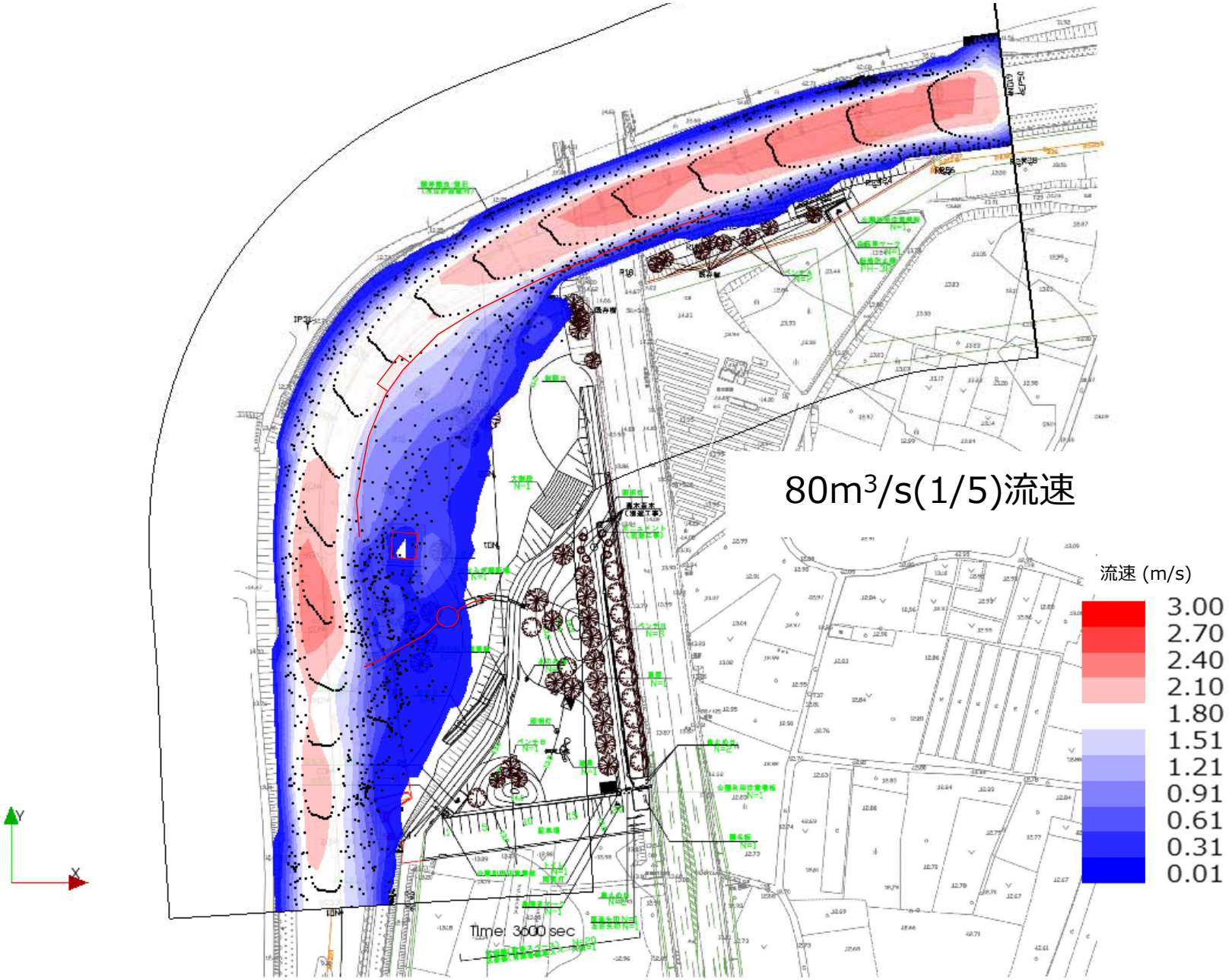


公園整備と一体となった河川整備

既設護岸を取り壊し、土羽護岸へ

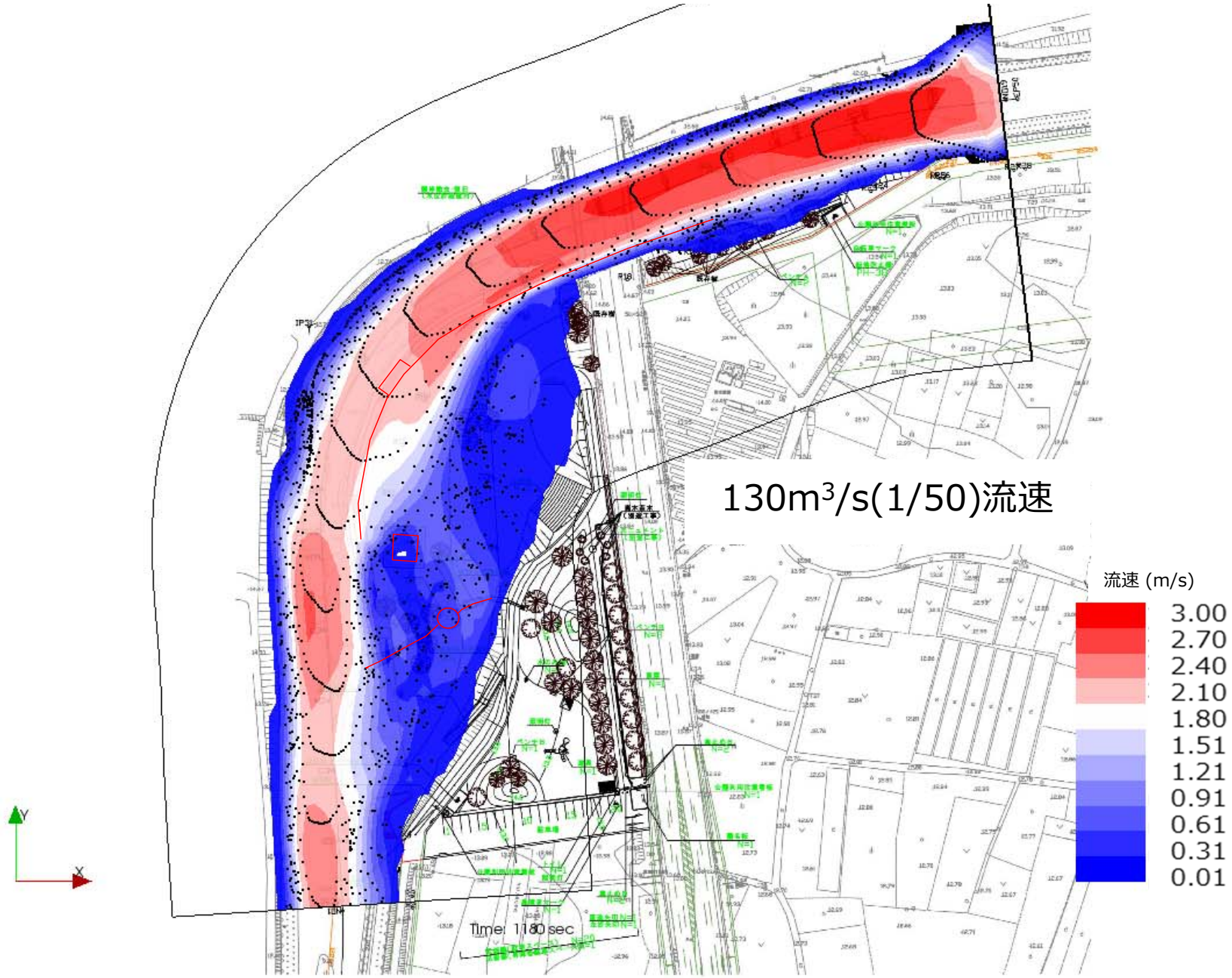
公園整備と一体となった河川整備

既設護岸を取り壊し、土羽護岸へ



公園整備と一体となった河川整備

既設護岸を取り壊し、土羽護岸へ



公園整備と一体となった河川整備

公園整備と一体となった河川整備

せせらぎの創出

上流から望む

利用状況

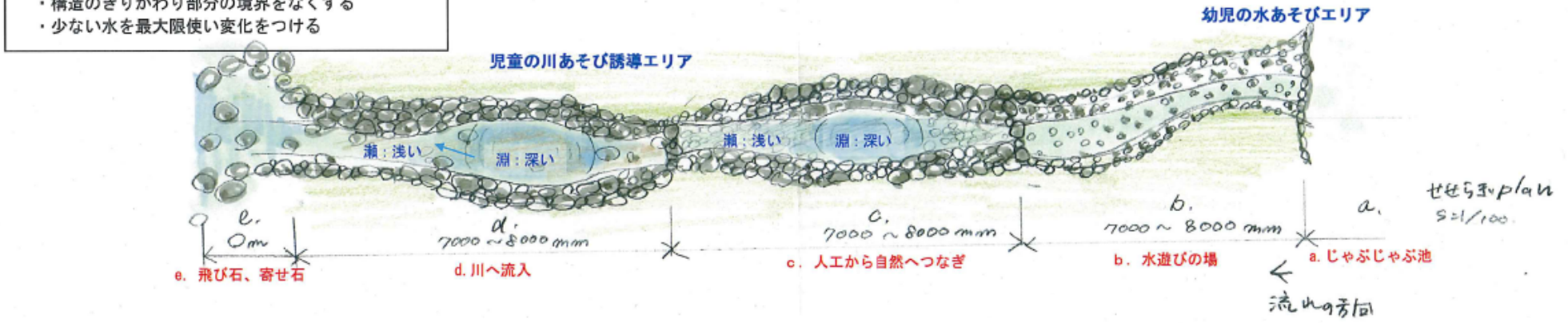
下流から望む

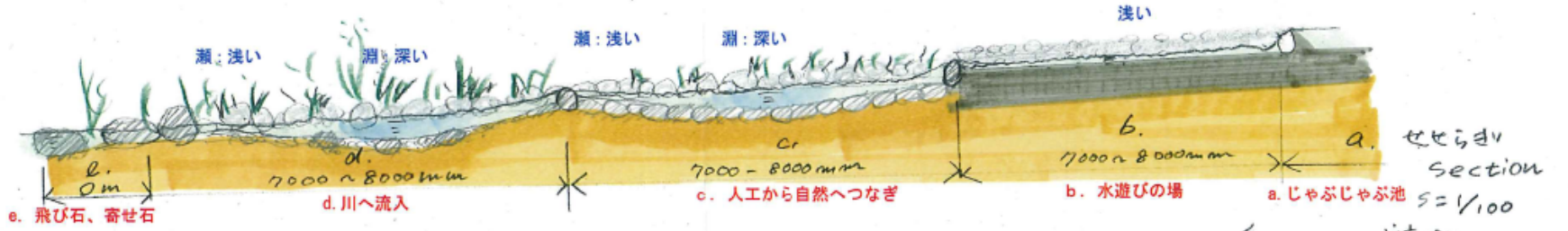
公園整備と一体となった河川整備

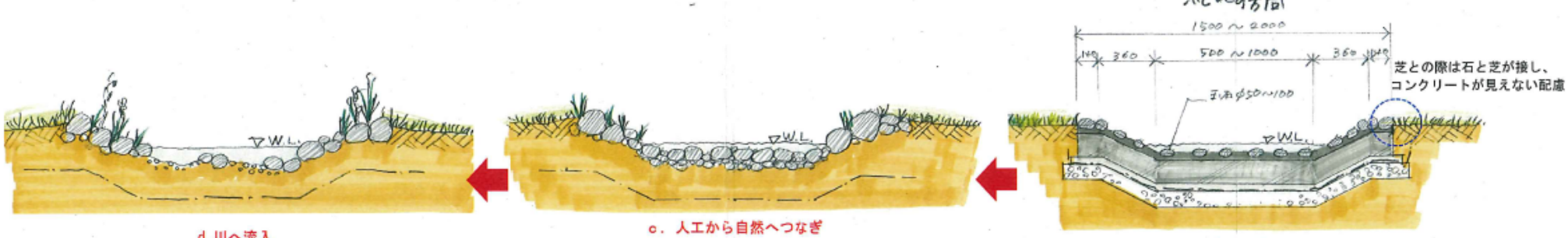
せせらぎの創出

14.07.23　資料
せせらぎ断面イメージ図

せせらぎのポイント
- 人工物と自然物（石、土、草）の境界をなくする
- 構造のきりかわり部分の境界をなくする
- 少ない水を最大限使い変化をつける







水遊びの安全性を重視する
- 清掃しやすい３面張り
- 滑り止めに玉石洗い出し

公園整備と一体となった河川整備

せせらぎの創出

現場での位置だし

施工状況

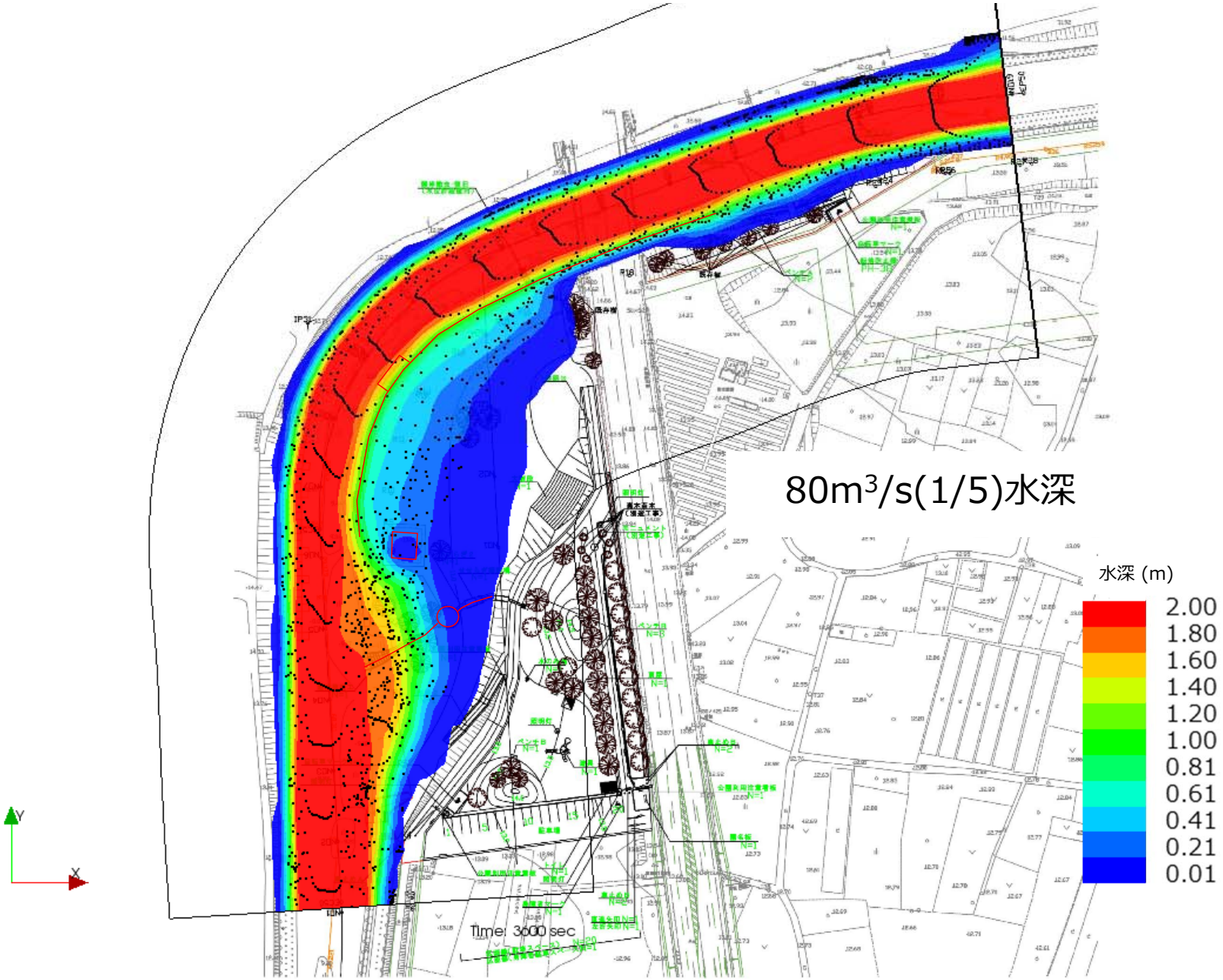
現地検討会

公園整備と一体となった河川整備

景観を損なわない形で、日陰をつくる植樹、石のベンチを配置

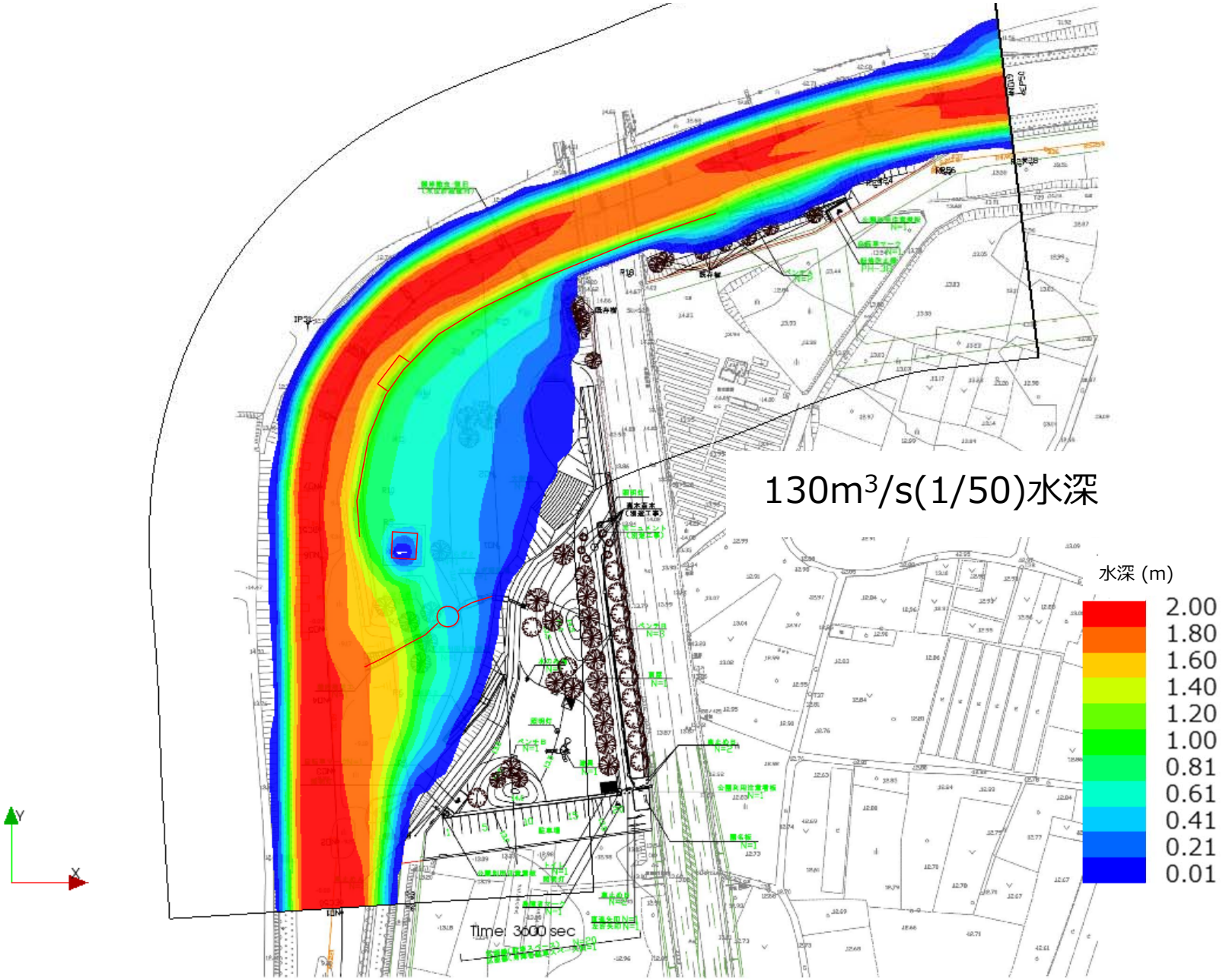
公園整備と一体となった河川整備

洪水時の確認



公園整備と一体となった河川整備

洪水時の確認



公園整備と一体となった河川整備

樹木の配置や高さを確認

清流平和公園の活用状況と今後の課題

活用状況
（水辺の賑わい）

市街地に親水空間を創出
- 地域住民の憩いの場
- 自然と触れ合える空間
- 川遊びの場

清流平和公園の活用状況と今後の課題

糸貫川の課題

・糸貫川には、ホタルやヨシノボリなど「きれいな水」を好む水生生物が生息

・ＢＯＤの値も５ｍｇ／Ｌ以下

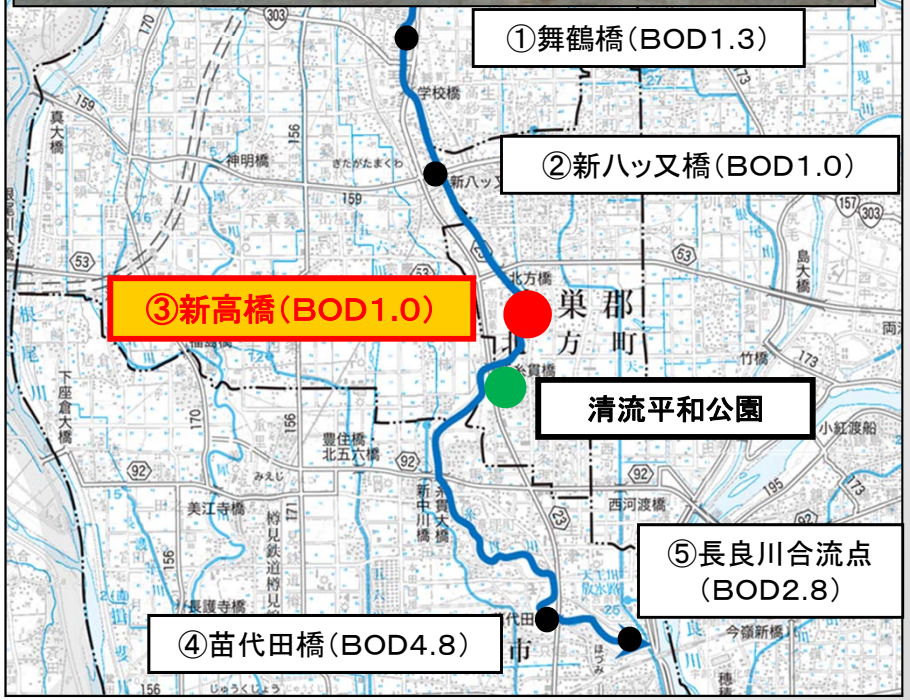
ホタル生息区域

ホタル観賞会撮影

しかし、川には多くの生活ゴミ！！

山口頭首工

河川環境保全団体 「ゆうすいの会」



清流平和公園の活用状況と今後の課題

上下流連携による水環境の改善

＜目的＞
　水環境の改善を図ることで、糸貫川をより魅力的な、地域の憩いの場となる川にする。

テーマ ： 子ども達が安心して遊べる水環境づくり

清流の国ぎふづくり糸貫川水環境対策検討会

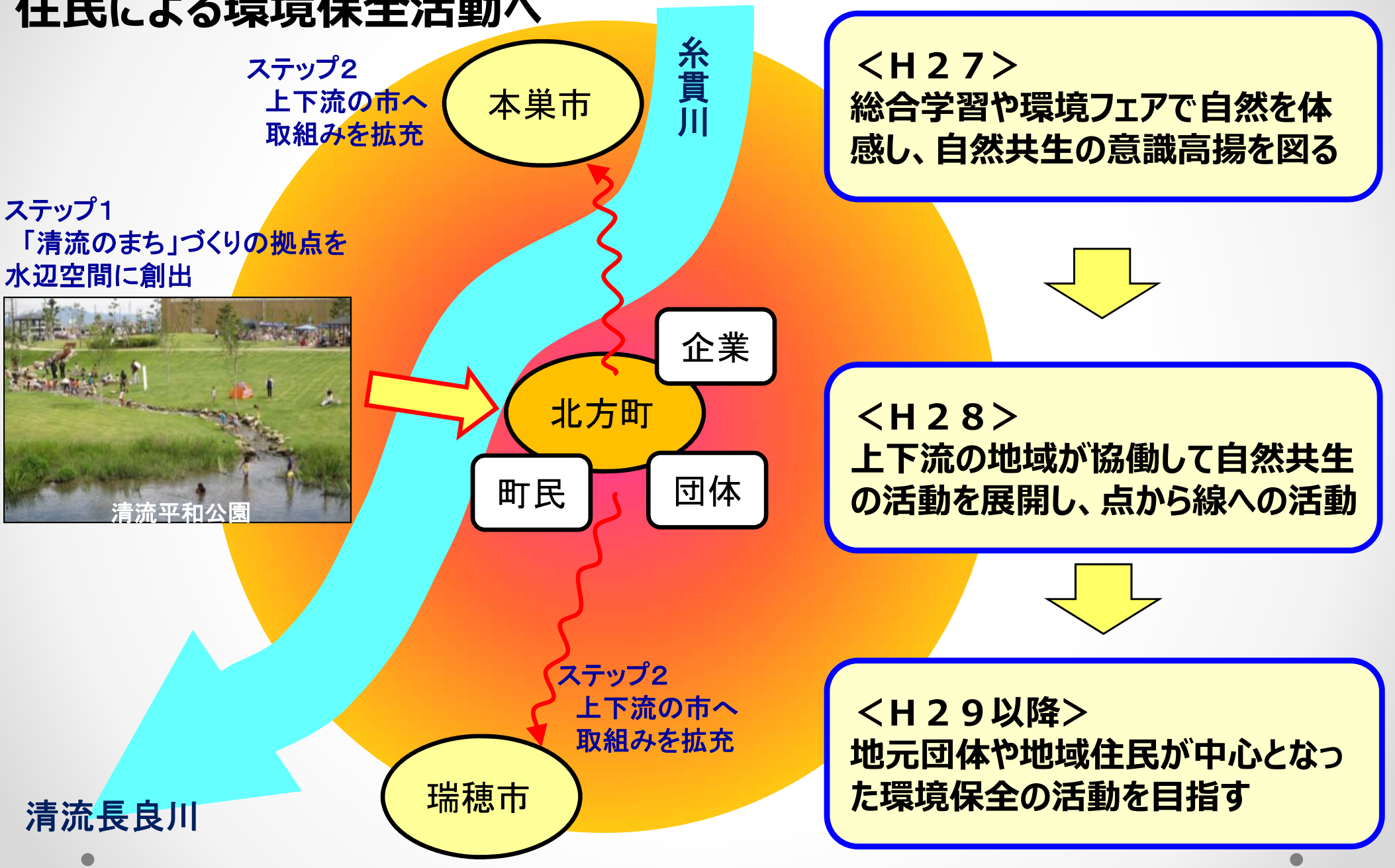
地元組織　学識経験者　関係市町　県関係機関

各機関が連携して流域全体の水環境の改善を図る

Ｈ２７年２月に設立し、Ｈ２８年３月に改善計画を作成

清流平和公園の活用状況と今後の課題

住民による環境保全活動へ



＜Ｈ２７＞
総合学習や環境フェアで自然を体感し、自然共生の意識高揚を図る

＜Ｈ２８＞
上下流の地域が協働して自然共生の活動を展開し、点から線への活動

＜Ｈ２９以降＞
地元団体や地域住民が中心となった環境保全の活動を目指す